

| 2024年度（2025年3月期）の概況

シャープ株式会社及び連結子会社

2024年度は「年間黒字必達」を目標に、全社を挙げて収益力の強化に取り組みました。この結果、ブランド事業は二桁の増収増益を達成し、デバイス事業もディスプレイ事業の構造改革の進展により営業赤字が大幅に縮小、全社トータルでは、売上高が前年対比で減少したものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも大きく改善し、黒字化しました。さらに、売上高及び各利益ともに公表値を上回りました。

売上高は、スマートライフ&エナジー、スマートオフィス、ユニバーサルネットワークのブランド事業3セグメントの売上が伸長した一方、ディスプレイデバイス、エレクトロニックデバイスのデバイス事業2セグメントの売上が減少し、2,160,146百万円(前年度比93.0%)となりました。

営業利益は、27,338百万円の利益(前年度は20,343百万円の営業損失)となりました。円安の影響がある中、欧州でのエネルギーソリューション事業終息費用も発生したスマートライフ&エナジー、顧客需要の変動が大きかったエレクトロニックデバイスは減益となりましたが、販売が大きく伸長したスマートオフィス、売上が伸長したことに加え一過性の収益も計上したユニバーサルネットワークが大幅な増益となりました。また、構造改革が進んだディスプレイデバイスでは、赤字幅が大幅に縮小しました。経常利益は、為替差損などを計上したものの営業利益が大幅に改善したことから、17,653百万円の利益(前年度は7,084百万円の経常損失)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、減損損失や事業構造改革費用を計上したものの、経常利益が改善したことや、液晶パネル工場関連の資産売却や有価証券の売却を進めたことなどにより、36,095百万円の利益(前年度は149,980百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)と、3期ぶりに黒字化しました。

また、2024年5月の中期経営方針で掲げた「デバイス事業のアセットライト化」についても、当初のスケジュールに沿って着実に実行することができ、ブランド事業においても、低収益事業の構造改革に取り組むとともに、成長への布石を複数打つなど、再成長に向けた確かな基盤の構築が進展しました。

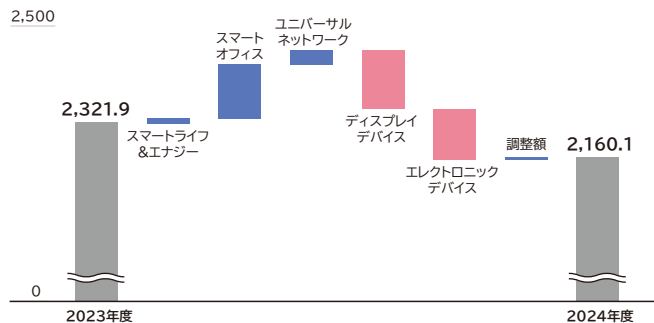
なお、年間配当金につきましては、個別決算において繰越利益剰余金が欠損の状況であるため、無配とさせていただきます。

■ ブランド事業は、3セグメント全てが増収となり、営業利益も、円安によるマイナス影響がある中、増益となる。デバイス事業は減収となったものの、ディスプレイ事業の構造改革が進み、営業赤字が大幅に縮小

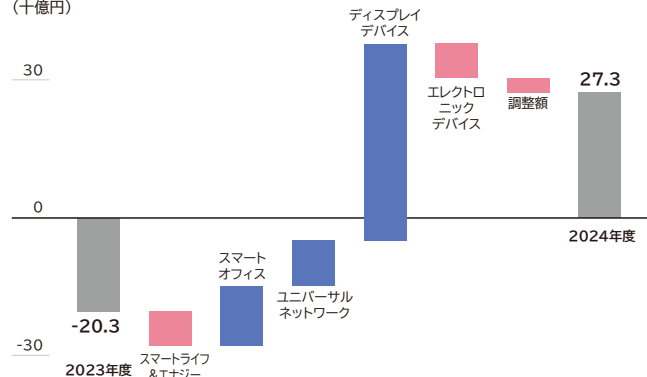
■ 全社トータルの売上高は前年度を下回ったが、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも大きく改善し、黒字化。売上高・各利益ともに公表値を上回る

■ アセットライト化や2025年度以降に向けた基盤の構築についても着実に進展

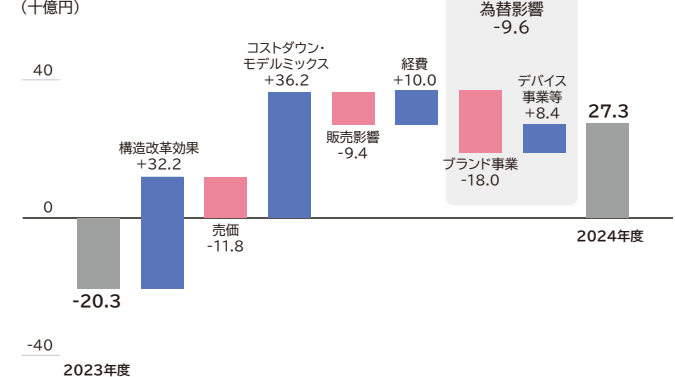
売上高 増減分析(セグメント別)
(十億円)



営業利益 増減分析(セグメント別)
(十億円)

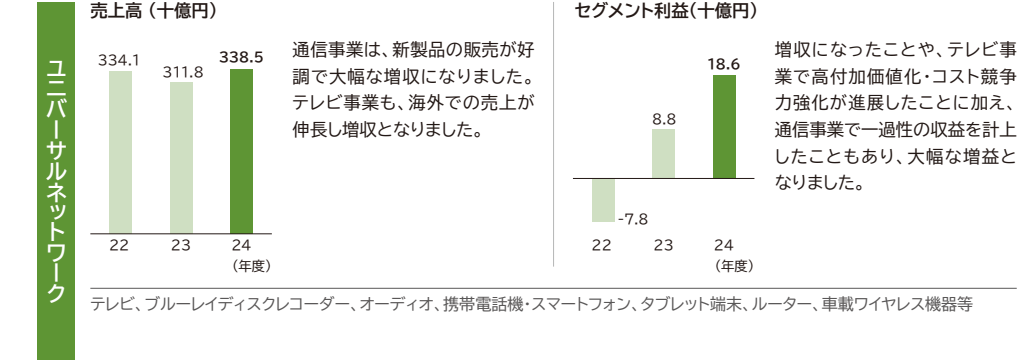
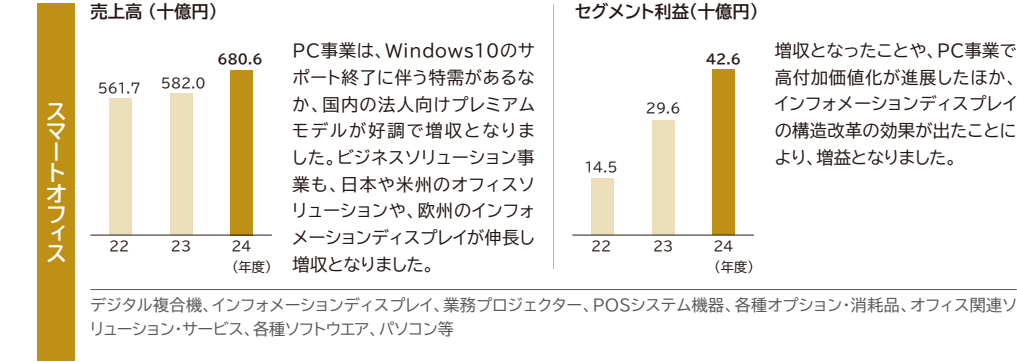
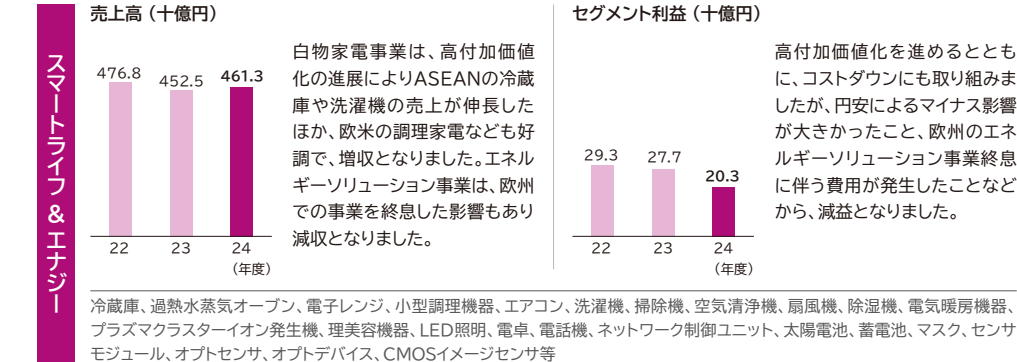


営業利益 増減分析(要因別)
(十億円)



セグメント別売上高・セグメント利益

ブランド事業



デバイス事業

